
ビートナイト

アメリカンなお調子者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ビートナイト

【Nコード】

N61970

【作者名】

アメリカンなお調子者

【あらすじ】

陸月音夜が強くなる話

ビート

ビートが荒野に響く……。

音夜「……誰かいるのか？」

銀色の鎖で固められた大きな塔の中で、一人の男が立っていた

音夜「久しぶりだな……、ギーマ」

ギーマ「音夜くん、こんばんわ……久しぶりに戦^やらないか？」

硬く針金で巻かれた右腕を抑えながらギーマは言った。

音夜「Ok、でも……俺と戦った事、後悔すんなよ？」

ギーマ「フン、後悔すんのはお前のほうだけど……な」

そうすると、ギーマの左手が伸びた。

音夜「出ました……グリーンオブグリーン！」

左手は、音夜の首を巻いた

ギーマ「さあ、ファーストクラッシュ……、絶えられるか？」

音夜「燃やしきるぜ、灼熱可憐歌」

音夜は炎を身にまといギーマの左手を振り払った

音夜「まあだ、まだあ！！サンダーリズム！」

一瞬のうちに、ギーマの目の前に来た。

音夜「コンボだ！トリプルバズーカ！」

バァン！

バァン！

バァン！

爆発音が三発響き、地面は大きく抉られた

音夜「どうじゃ？」

煙が消えると、ギーマの姿は無かった。

音夜「な・・・？」

ギーマ「ここだよ！グリーンオブグリーン！」

地面から左手が伸びてきた。それを今度は両足を縛った。

ギーマ「さーて、俺の左手から毒素を送り込むよ・・・」

そうすると、両足が痺れ始めた

音夜「させ・・・くそっ！痺れて技が出せない・・・けど・・・」

その瞬間、音夜の目が光った。

音夜「ツートンドラゴン!!」

黒い竜と白い竜が、ギーマに襲い掛かった

ギーマ「くっ……ぐわああああああっ」

ギーマの右腕

ギーマ「はあはあ・・・2年前より、ツートンドラゴン・・・強くなったな。」

音夜「あたりめーじゃん、惨敗しまくってたあの時は違っただよ。」

ギーマ「ふん・・・じゃ、俺の本気を見せてやろうか。」

右腕に巻いていた針金を取った。

そうすると、右腕が、太くなり、野獣の様な腕と化した。

ギーマ「ブーストクラッシュ!!!!!!」

その右腕で、思い切り音夜の顔を殴った。

音夜「ぶはあっ・・・、なんて力技だ」

ギーマ「実は・・・俺、力属性なんだよね・・・」

音夜「音属性なら、音属性らしく・・・ノってくぜ」

リズムが月夜に響く。

音夜「音速B・・・」

スパアアアアアアアアアアッ

一瞬で、ギーマを抜き去った。

ギーマ「なっ？」

音夜「このスピードについて来れるか？」

・・・

ギーマ「くっそ・・・速ええ・・・」

音夜「まだまだあ 音速C！」

一瞬のうちで、ギーマを切り刻んだ。

ギーマ「ぐ・・・・・・・・」

音夜「・・・・・・・・フ、俺の勝ち」

2人は一つ（前書き）

属性というのは、

風属性 疾風のように、風を巧みに使う人

力属性 力を思いきり使う人

音属性 音速や、リズムに乗りながら攻撃する人

鉄属性 硬い守りがあり、鋼鉄のような攻撃をする人

プラズマ属性 痺れなどを、使う人

2人は一つ

ギーマ「来週、キングオブバトラー、まあ、一番強いやつを決める大会があるんだ。」

音夜「へー、この2年でそんなのがあったんだ」

ギーマ「俺も、それに出るんだけど、音夜も出るよな？」

音夜「無論、ろん」

・・・そして当日

ギーマ「きたな。音夜」

そこには、広がる草原があった。

音夜「なあ、ギーマ・・・こんな何もない草原でやんの？確かに人はいっぱいいるけど・・・」

ギーマ「草原程いいフィールドはねえじゃん！」

音夜「そうなの？」

ギーマ「一回軽くバトるか？」

音夜「試合前だからね・・・やめとく、それより、トーナメント見に行こうぜ。」

ギーマ「ああ」

草原の端っこに小さな小屋があり、そこが本部となり、そこにトーナメントが張り出されている。

音夜「えーと、32人出場で・・・俺は鉄属性のアダンってヤツと」

ギーマ「俺は・・・プラズマ属性のイデ・イダってヤツ。うわ、第1試合か。」

そこで、草原に、音が鳴り響いた

「第1試合の、ギーマ、イデ・イダは、試合を開始するので、草原へ行ってください。」

音夜「頑張れよ、ギーマ、俺は第2試合だから、1回戦勝ったら、俺と勝負だ。」

「これより、ギーマ対イデ・イダの試合を始めます。」

ギーマ「こい、先に攻撃させてやる。」

イデ・イダ「じゃあ、お構いなく。分裂」

そうすると、巨体から一変、小さいからだの男二人が現れた。

イデ「お前・・・」

イダ「一瞬で倒しちゃお」

B i r i B i r i (前書き)

追記、プラズマ属性同士は、合体することもできます。

BiriBiri

ガキ「おい、井出！サッカーしようぜ！」

イデ「ああ、いいよ。」

イダ「僕も入れてよ！」

ガキ「井田は、ヘタクソだから駄目。」

イダ「あつ……うん。分かった……」

ガキ「フン、ヘタクソなくせによく言えたもんだな。さっ、行こうぜ、イデ」

イデ「ああ……」

……

ガキ「おい！井田！掃除当番、俺の分もしっかり頼むぞ！」

イダ「え……でも……」

ガキ「なんか言ったか？」

イダ「いや……」

ガキ「じゃ、よろしくな、井出、サッカーしようぜ！」

イデ「ごめん、今日ちょっと居残り。」

ガキ「そっか、じゃあな、イデ！」

・・・

イデ「はあ・・・悔しいな・・・」

イデ「イダ君、俺も手伝うよ。」

イダ「え？でも・・・」

イデ「二人でやったほう早く終わるじゃん？」

イダ「うん、ありがと。」

・・・

イデ「イダ、あいつのことムカつかないのか？」

イダ「ムカつくどころの事じゃないよ。もうぶっ倒しちゃいたいくらい。」

イデ「じゃ、ぶっ倒そうよ。俺らの手で。」

イダ「え？」

・・・

ギーマ「グリーンオブグリーン！二人まとめて、縛ってやる！」

ギーマの左腕は、二人の体を縛った。

イデ「イダ！一緒にいくよ！この左手を！」

イダ「うん！せーの！」

W プラズマ！！！！

電流は、左腕をわたり、体中に流れた。

ギーマ「ぐ····うわあああああああ····！！！！」

イデ「さーてビリビリ行くよ。」

ハードバトル

ギーマ「くっ……だからプラズマ属性は嫌いなんだよ。」

そうすると、ギーマは地面に潜った。

イデ「ふん。僕らの電流は」

イダ「地面にも伝わるんだよね。」

そうすると、二人は地面に手を当てた。

イナズマビーム!!!!!!

ギーマ「ぐわあああああああああああああ!!」

……

イダ「おい!!」

ガキ「あんだあ? 文句あんのか?」

イナズマビーム!

波動刃

イデ「何？あいつの右腕？」

イダ「膨らんでいくよ・・・？」

ギーマ「さあ、行くぞ・・・新必殺」

霸道刃！！！！

その瞬間、イデとイダは吹っ飛んでいった。

ぷしゅううううううううううううう

音夜「形勢逆転・・・かな？」

・・・

ガキ「待て・・・、まだ・・・」

イダ「ん？」

ガキ「お前・・・そんな・・・強かったのか・・・」

・・・

イデ「・・・まだ終わらせないよ。」

イダ「この一発で終わっちゃったら、つまんないじゃん？」

ギーマ「立ち上がったら、この右手で切るまで・・・」

その瞬間、ギーマの前に小さな二人が現れた。

イデ「ダッシュ・・・」

イダ「スパーク・・・」

ギーマ「なっ・・・？」

最後の力

ジュジュジュジュジュジュジュジュジュジュ

ギーマ「くはぁっ……くっ……」

イデ「最後の力を振り絞ったまでだ……」

イダ「ここで耐えてるって事は、お前の勝ち……。」

ギーマ「そのようだな……じゃ、決めさせてもらう。」

波動刃!!!

……

ガキ「そんなに……強かったのか……」

イダ「いいや、俺は強くないよ。一人じゃね。」

ガキ「え？」

イダ「イデがいてくれたから、強くなった。それだけ」

……

「試合終了です。第1試合は、ギーマさんの勝利です。続いて第2試合を開始します。」

アダン「よろしく。音夜くん。」

音夜「あいさつはいらねえ、2秒で終わらせてやる。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6197o/>

ビートナイト

2010年11月6日14時31分発行